

タイミングを取りながら順次ファイルを開いていく 「ドキュメント一括起動ツール」



DocStarterCS ドッグ・スターター 取扱説明書 Ver1.03.0

事始め

既存のソフトの中には、他のソフトを起動するものが多くあります。例えばタイマーツールなどは単純にサウンドを鳴らす、以外に任意のソフトを起動できるのが一般的です。しかし一度に起動できるソフトの数といえば例外はあるとは思いますが、ほとんどは1個のみではないでしょうか。筆者作成のタイマーツール(TimerA)も任意のソフトを起動できますが、一度のイベントで起動できるソフトは1個のみです。

「DocStarterCS ドッグ・スターター」は1度の操作で複数のソフトを起動するときに使用します。

ある仕事をする場合、「複数のドキュメントをワンセット」として開きたい場合があります。例えば、エクセルの統計結果を見ながら上司宛ての報告メールを書くとか、社内用のデータファイルを見ながら、クライアントへの結果報告を書くとかです。考えてみれば1つのソフトのみを起動して仕事を進められるのは稀で、多くはあちこちの既存ファイルを参照しているのが現状ではないでしょうか。

1つの仕事をはじめるとき、定型的に開くワンセットのドキュメントがあるならばそれらをあらかじめ開いたあと、気合入れて「仕事開始!」とすると、煩雑さから多少逃れられます。・・・と考えて作られたのですが?

DocStarterCS 概要

あらかじめ登録されているドキュメントを、タイミングを取りながら順次開いていくツールです。このときのドキュメントとは、通常マイドキュメントなどに保存されている「データファイル」だけでなく、「実行可能ファイル」や「フォルダ」も含まれます。データファイルが指定されればそれを開きますし、実行可能ファイルのときはそのソフトが起動されます。また、フォルダであればエクスプローラなどのファイル管理ソフトが動作し、そのフォルダを開きます。

登録されているデータファイルは、通常ウィンドウズ標準で関連付けされているソフト(ツール)で開きますが、ツールを別途指定することも可能です。このときは細かいパラメータスイッチが指定できます。

起動される(開かれる)ドキュメントは、ドキュメント前後のタイミングをとるために遅延時間を設けることができます。また、前行のドキュメントが終了するまで次行のドキュメント起動を控えることもできます。

登録された、すべの情報 は DocStarterCS定義ファイル(拡張子=dsta)として名前をつけて保存できます。作者の思惑としては、この定義ファイル1つ1つが仕事単位での「ドキュメント一括起動ツール」となることを狙っています。

よくあるウィンドウズの立ち上げ時のスタートアップツールとしても、もちろん使えます。

インストール方法

インストーラは用意していません。

任意のドライブに新規にフォルダを作成(例えば C:\DocStarterCS とか C:\Program Files\DocStarterCSなど)して、解凍されたファイル全てコピーします。後は、DocStarterCS.exe ファイルをエクスプローラ上でダブルクリックすれば動き出します。必要に応じて、DocStarterCS.exe のショートカットを作り、デスクトップなどに置いておけば使いやすくなります。

適当なドキュメントを登録し、名前をつけて保存で DocStarterCS定義ファイル(拡張子=dsta)を作成して、拡張子dsta に対する DocStarterCS.exe をウィンドウズ標準の関連付けをしておくことをお勧めします。

ウィンドウズでの関連付けはウィンドウズのレジストリを追加しますので、これを回避したい場合は筆者作成のDocLaunCS 内での関連付けを行えば、DocLaunCS から DocStarterCS定義ファイルがつかえます。

バージョンアップ方法

基本的にバージョンアップは DocStarterCSを終了させ、配布された書庫ファイルを解凍して得られたファイルをインストールフォルダに上書きコピーするだけです。ユーザ固有の環境設定ファイルやドキュメント保存用のファイルなどはそのまま引き継がれます。

DocStarterCS のメニューバーの [ファイル] - [インストール先フォルダを開き終了]は、インストールフォルダを開くと同時に DocLaunCS も終了するのでバージョンアップ時には便利です。

アンインストール方法

アンインストーラはありません。

DocStarterCS を終了させた後、DocStarterCS.exe が収まっているフォルダごと削除してください。インストール時や動作時にレジストリは使っていないのでアンインストールはこれで完了です。

手動で、拡張子 dsta をウィンドウズ標準の関連付け操作を行っている場合は、レジストリに残ります。この削除はエクスプローラを起動して、「ツール」-「フォルダオプション」の「ファイルタイプ」タブで dsta を探し出し削除してください。・・・他のものを消さないよう注意して行ってください。

動作環境

Windows2000 または WindowsXP の日本語 Windows で 「.NET Framework 2.0」以上が動作しているパソコン。

ご自分のパソコンに 「.NET Framework 2.0」以上が動作しているかどうかは「コントロールパネル」-「プログラムの追加と削除」から判断することが出来ます。筆者の場合ですと

Microsoft .NET Framework 2.0

の一行が見出せます。2.0 以上であれば OK です。

なお、「.NET Framework Version2.0 インストールガイド」を筆者のサポートページ「屋根裏実験室」に公開しています。よろしければ参考にしてください。

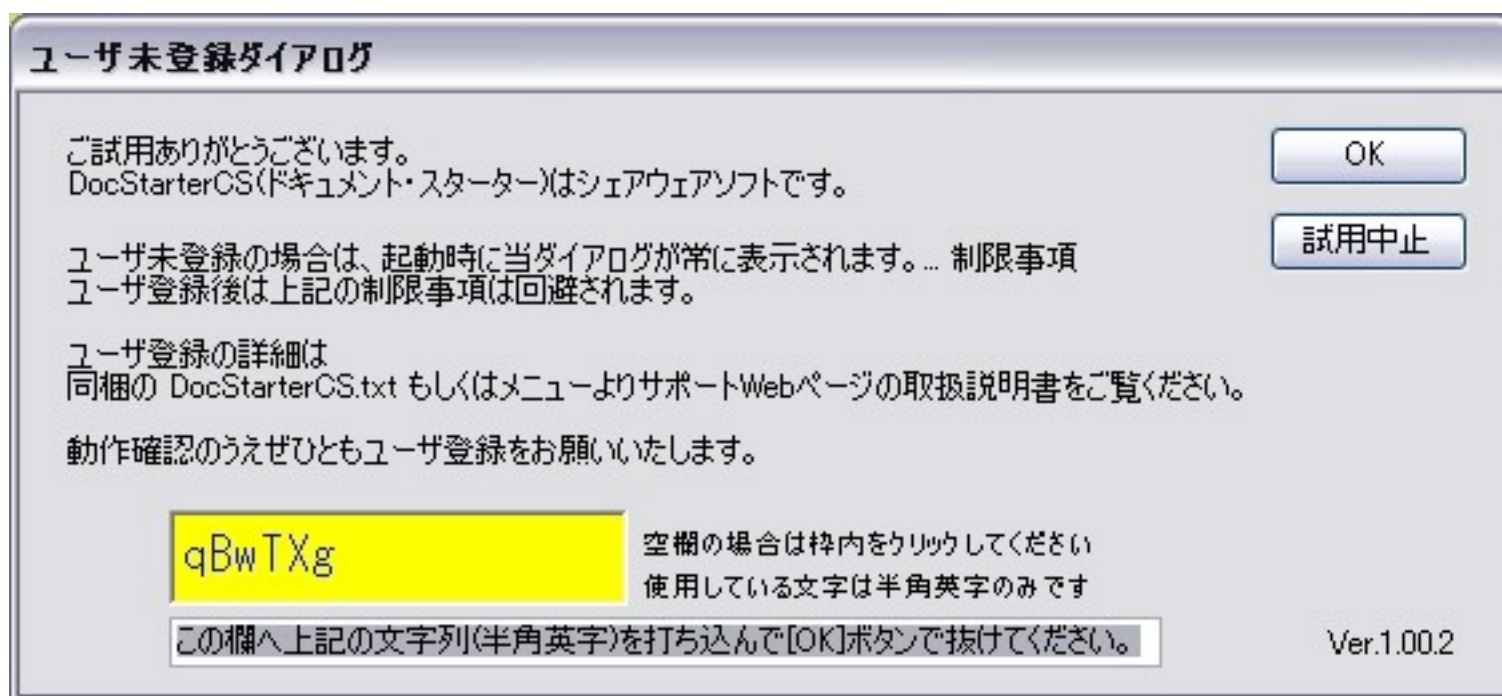
>> 屋根裏実験室 <http://homepage1.nifty.com/yaneurazikken/>

起動とユーザ未登録ダイアログ

起動はインストールしたフォルダにある実行ファイル「DocStarterCS.exe」をエクスプローラでダブルクリックします。もちろんショートカットを作成してデスクトップ、タスクバーにあるクイック起動ツールバーなどにおいておけば利便性がまします。もしプログラムランチャーを使用しているのであればそこに登録しておくのも便利につかう方法です。

継続的に使うようでしたら、DocStarterCS の定義ファイル(拡張子=dsta)に対してウィンドウズ標準の関連付けをしておくとう起動しやすくなります。

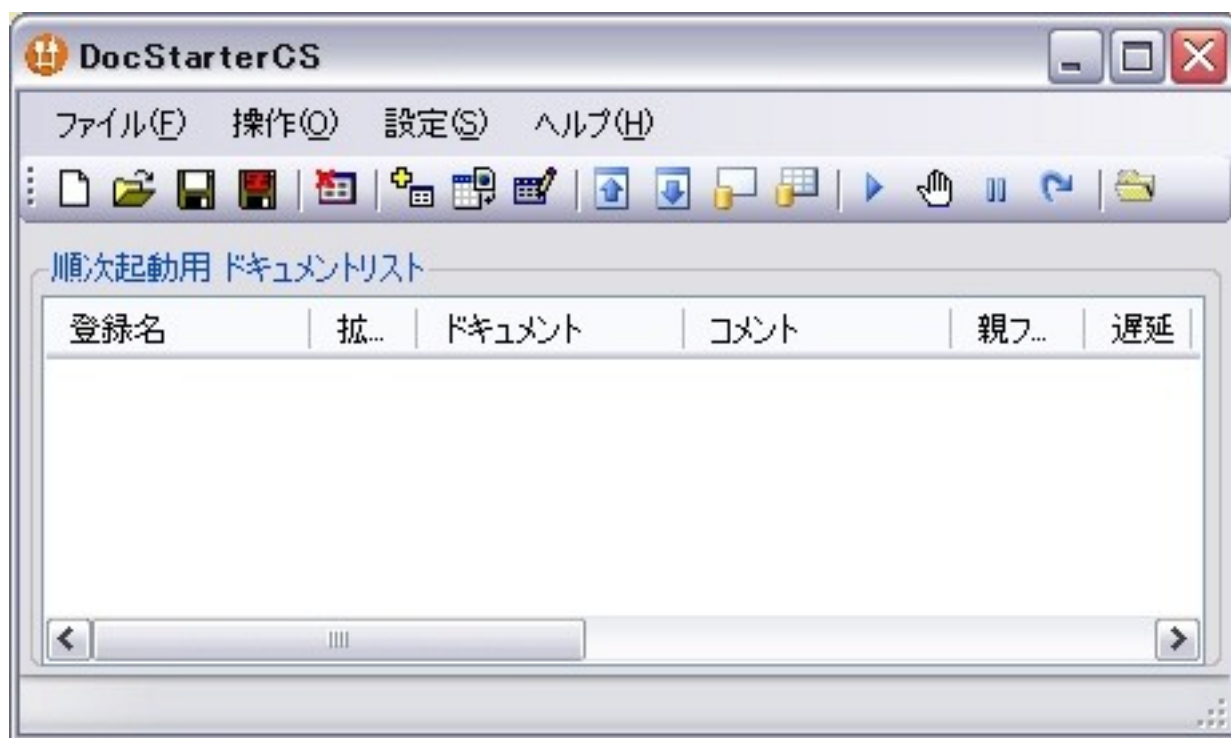
DocStarterCS はシェアウェアソフトです。起動すると「ユーザ未登録ダイアログ」が表示されます。



黄色の枠内の英字を大文字、小文字を区別して正確に下のテキストボックスに打ち込んで、「OK」ボタンで抜けてください。「ユーザ未登録」の制限はこれのみです。機能的な制限はありません。

ユーザ登録後は、この「ユーザ未登録ダイアログ」画面は表示されません。

メイン画面



メイン画面はほぼすべてが登録ドキュメントのリスト表示画面です。ドキュメント(ファイルもしくはフォルダ)が登録されると、その登録情報がリストに表示されます。必要ならばそのドキュメントを開くためのソフトのパス名などの登録も可能になっています。
登録のタイトル表示は以下のものがあります。

[登録名]

オペレータが任意に記入できます。何であっても動作に支障ありません。登録されている場合、登録名の左側にチェックボックスが付き、その登録の「有効/無効」を切り替えます。一時的に登録をはずしたい場合に使用します。

[拡張子]

登録ドキュメントの拡張子です。オペレータに実際に動作するソフトを連想させるためのものです。

[ドキュメント]

拡張子を含まない、ドキュメントのフォルダ名・ファイル名です。

[コメント]

オペレータが任意に記入できます。何であっても動作に支障ありません。ファイル名が番号などで内容の把握が困難なとき自由に記述できます。

[親フォルダ]

ドキュメントが所属している親フォルダパス名です。

[遅延]

起動する場合の遅延時間です。単位 1/10秒。起動のタイミングを取るためのものです。

[待機]

on/off での指示です。onのときは(待)と表示されます。

onのとき、この行のドキュメントが起動から終了するまでの間、次の行のドキュメント起動は待たされます。常駐ソフトや二重起動を禁止しているソフトを起動するとき on にすると思惑と異なる動作をしますので注意してください。

[使用]

on/off での指示です。onのときは(使)と表示されます。

onのとき登録ドキュメントはウィンドウズ標準ではなく、別途指定されたツールで開かれます。ツールの正常な指定が必須になります。

[ツール名]

登録ツール名です。普通はツールのファイル名ですがオペレータが任意に記入・変更できます。内容は動作に関係ありません。

[ツールパス名]

ドキュメントを開くツール(ソフト)の実行可能ファイルのパス名です。[使用]が on のときは必須です。

[スイッチ]

ツールが動作するときのパラメータスイッチの指示領域です。関連パス名の指定が不要なときは自動で記述されている"%2"を消去してください。

この領域で %1 は登録ドキュメントのパス名を、%2 は後述の関連パス名を意味します。

[窓種]

ドキュメントを開くときの窓種(通常・最小化・最大化)。ツールによっては無視されます。どの窓種で開かれるかはそのツールの仕様が優先されます。

[作業フォルダ]

ツール起動時の初期フォルダです。ツールが内部で使用する場合のフォルダパス名です。ほとんどは無指定でも動

作に支障はありません。

[関連パス名]

パラメータスイッチで %2 で指定できるパス名です。登録ドキュメント以外に、第2のパス名が必要な場合に備えているだけです。使用するかどうかは任意です。
想定としては「コピーツールを使用したときで、コピー元が登録ドキュメントだとして、コピー先のフォルダ指定がもうひとつ必要になるな...」など、です。

登録ドキュメント

言葉と表現の注意

>> 「ドキュメント」の言葉の説明

DocStarterCSでいうドキュメントとはマイドキュメントに保管されているファイルだけでなくウィンドウズで管理されている「全てのファイル」と「全てのフォルダ」のことです。ファイルと同様にフォルダもドキュメントとして扱っています。

またファイルのうち拡張子が exe、scr や js など通常データファイルとは言わない実行ファイルやスクリプトファイルやショートカットもドキュメントファイルの一種として扱います。

>> 「ドキュメントを起動する」という表現

ドキュメントが実行ファイルでない、通常データファイルの場合、データファイルを起動するという表現は理屈に合わない表現ですが、現実的にはその拡張子に対して関連付けがなされていると対応するツール、ソフトが動作します。拡張子 exe などの実行ファイルをエクスプローラなどでダブルクリックして動作させるのと同じ操作で、データファイルをダブルクリックしても該当するツール・ソフトが動作します。結果的には実行ファイルであろうとデータファイルであろうと条件がそるえばツールソフトが動作することは同じで、データファイルの場合はその内容が「開かれるという動作をする」という意味でドキュメントを起動するという表現を時々使っています。ご了承ください。

ドキュメントの登録

>> ドラッグ&ドロップでのドキュメント登録

DocStarterCS を起動したあと、エクスプローラなどのファイル管理ツールから登録したいドキュメントを選択し DocStarterCs のリスト部にドラッグ&ドロップ操作を行うと登録が完了し、リストへ表示されます。複数のファイルを選択し登録することも可能です。

「¥¥コンピュータ名」で始まる隣接コンピュータのファイルの登録もローカルファイルと同様にできます。

>> ドキュメントアイテムの追加・編集 画面でのドキュメント登録

「メニュー」 - 「設定」 - 「ドキュメント追加」で「ドキュメントアイテムの追加・編集」ダイアログが開きます。この画面からドキュメントの登録と詳細な設定ができます。

全体の画面構成は、大きく上下2段に分かれていて、上段が登録ドキュメントの指定です。下段はその登録ドキュメントを開くためのツールを指定する場合に使用します。下段が指定されていない場合はウィンドウズ標準で関連付けされているツールソフトで開くこととなります。

ドキュメントアイテムの追加・編集

実行許可フラグ [チェック有り]実行の対象にする / [無し]登録のみ

登録名

登録コメント

ドキュメントパス名 (%1)

遅延時間(1/10秒) 窓種

待機フラグ [チェック有り]次行の起動処理は該当行のアプリ終了まで待つ / [無し]待たない

作業フォルダパス名

お試し専用スイッチ

ツール使用フラグ [チェック有り]指定のツールで開く / [無し]ウィンドウズ標準で開く

ツール名

ツールパス名

関連パス名 (%2)

ツールスイッチ

ドキュメントパス名のテキスト欄(水色枠内)へ直接入力、エクスプローラなどのファイル管理ツールから登録したいドキュメントを選択しドラッグ&ドロップ操作を行うことで、登録できます。また、その右に位置する。「ファイル参照」「フォルダ参照」ボタンからもドキュメントの登録が可能です。

「開く」ボタンは登録されているドキュメントがフォルダの場合はそのフォルダをエクスプローラなどのファイル管理ツールで開きます。ファイルの場合は所属する親フォルダを開きます。

拡張子が exe のソフト実行ファイルをドキュメントとして登録した場合は、ドキュメントパスへの登録と同時にツールパス名欄にも登録され、ツール使用フラグが「チェック有り」になります。要するにドキュメント登録というよりツールとして登録されます。これによりツールスイッチが使えるようになり、動作の幅が広がるのでこういう仕様になっています。

登録ドキュメントの詳細設定

「ドキュメントアイテムの追加・編集」ダイアログ画面からはドキュメントの登録と詳細な設定ができます。

[実行許可フラグ]

ドキュメントを登録した時、手入力以外では自動的にチェック有りの状態になります。登録ドキュメントを削除せずに一時的に動作の対象からはずしたい場合に「チェック無し」にします。

[登録名]

ドキュメントを登録したとき、そのドキュメントのファイル名(拡張子を除いたもの)が設定されます。自由に修正してかまいません。ドキュメントの動作には影響しません。

[登録コメント]

自由に記載できます。ドキュメントの動作に影響しません。

[ドキュメントパス名]

登録されているドキュメントのパス名を記載します。記載方法は直接入力・変更のほか、ドキュメントのドラッグ&ドロップや「ファイル参照」「フォルダ参照」のボタンからも行えます。

[遅延時間(1/10秒)]

登録ドキュメントの動作開始のタイミングを指定時間だけ遅らせます。単位 1/10秒

[窓種]

登録ドキュメントを動作(開く)するときのウィンドウの状態を指定します。通常画面、最小化、最大化があります。ただし、起動するソフトによってはここでの設定にかかわらず独自の画面状態で起動するものがあります。... 各ソフトの仕様が優先されます。

[待機フラグ]

「チェック有り」場合、ここで登録されているドキュメントが起動され、その後、それが終了するまで、次の行の登録ドキュメント起動処理を控えます。

[注意]

ドキュメントにより起動されるツール(ソフト)が常駐プログラムであったり重複起動が禁止されているような場合、待機フラグが無視されるとか、永遠に待機を続けるなどの思惑とちがう動きをする場合があります。

このようなツールの中に Windows標準のエクスプローラ(Explorer.exe)も含まれます。

フォルダを開いた後の待機フラグを有効に使用するには「常駐しないファイル管理ツール」を別途用意してください。

[作業フォルダパス名]

登録ドキュメントが開くときにソフトが使用する作業フォルダを指定します。特に指定が無ければソフトがインストールされているフォルダなどにしておきます。

[お試し専用スイッチ]

登録ドキュメントを開く場合、ウィンドウズ標準ではなく、特にツールソフトを指定した場合は、ツールスイッチ(ツール用のパラメータスイッチ)を使用することができます。

ここでのスイッチはツールの動作テストを行いたいときの専用スイッチです。・・・テストで本番のスイッチを使ったら支障がある場合が考えられますので、別途スイッチ項目を追加しています。ここでのスイッチ内容が反映されるのは「お試し起動」ボタンにより起動テストが行われたときのみです。

[ボタン ツールスイッチから複写]

本番用のパラメータスイッチの指定領域からの文字列をお試し専用スイッチにコピーします。

[ボタン お試し起動]

ツールソフトが指定されている場合、単体テストを行うためのボタンです。

[ツール使用フラグ]

「チェック有り」の場合、ツールパス名で指定されているソフトで登録ドキュメントを開きます。このフラグが「チェック無し」の場合はツールパス名が指定されてあっても登録ドキュメントはウィンドウズ標準で開きます。

[ツール名]

ツールパスで指定しているソフト名を記載します。自由に記載できます。ドキュメントの動作に影響しません。

[ツールパス名]

登録ドキュメントを開くためのソフトの実行ファイルのパス名です。「ツール使用フラグ」がチェック有りの場合は必須項目です。登録はエクスプローラなどのファイル管理ソフトからのドラッグ&ドロップ。もしくは「ツール参照」ボタンから行います。

[関連パス名]

ツールを指定した場合、パラメータスイッチとして必要となるパス名を指定します。ほとんどは指定不要です。思惑は、コピー処理などで、コピー元は登録ドキュメントで、コピー先のパス名がもう一つ必要になる場合などを想定しています。登録はエクスプローラなどのファイル管理ソフトからのドラッグ&ドロップ。もしくは「関連ファイル参照」「関連フォルダ参照」ボタンから行います。また、関連パスで一度登録したものはコンボボックスのリストに登録されています。そのリストの編集が「関連パス・リスト編集」ボタンから可能です。

関連パスを使用しない場合、ツールスイッチ欄に "%2" があれば忘れずに消してください。

[ツールスイッチ]


登録ドキュメントを開く場合のツールを指定したとき、使用するパラメータスイッチを記載します。

指定ツールを起動するとき、%1には「登録ドキュメント・パス名」の文字列と置き換えます。%2は関連パス名の文字列と置き換えます。

その他のメイン画面での操作




登録ドキュメントの削除

[メニュー]-[設定]-[ドキュメント削除]。またはツールボタン 


削除したいアイテムを選択(反転)して、[メニュー]-[設定]-[ドキュメント削除]。削除の確認画面が表示されます。アイテムは [ctrl]キー、[shift]キーを併用することにより、複数選択することができます。


単体テスト

[メニュー]-[操作]-[単体テスト]。またはツールボタン 

1個のアイテムを選んで、そのアイテムのみの動作テストを行います。
テストしたいアイテムを1個選択(反転)して、[メニュー]-[操作]-[単体テスト]。
登録名の欄にあるチェックボックスは「実行許可フラグ」のことですが、チェック無しのアイテムでも単体テストは実行します。

全体テストと実行

[メニュー]-[操作]-[全体テスト]。またはツールボタン 

[メニュー]-[操作]-[実行]。またはツールボタン 

全体テストと実行はほぼ同じ動作をしますが、全体テストでは全部の処理が終わったあとの DocStarterCS 本体の自動終了設定を無視します。また実行ではエラーが生じても次行の動作に支障が無ければ続けようとしませんが、全体テストでは原則停止します。
登録名の欄にあるチェックボックスは「実行許可フラグ」のことで、チェック無しのアイテムは無視(スキップ)します。

メニュー説明

ファイル

>> ドキュメントリストの新規作成

>> 定義ファイルを開く

DocStarterCS定義ファイル(拡張子=dsta)の読み込みます。

>> 定義ファイルの上書き保存

現状の設定をDocStarterCS定義ファイル(拡張子=dsta)へ上書き保存します。ファイル名が定まっていないときは別名保存と同様にファイル名と保存先指定の画面が表示されます。

>> 定義ファイルの別名保存

現状の設定をDocStarterCS定義ファイル(拡張子=dsta)を保存します。このときファイル名と保存先指定の画面が表示されます。

>> インストール先フォルダを開く

DocStartCS.exeのあるフォルダを開きます。

>> インストール先フォルダを開き終了

DocStartCS.exeのあるフォルダを開いた後、プログラムを終了させます。DocStartCSのバージョンアップの上書きコピーする場合に便利です。

>> 終了

プログラムを終了します。

操作

>> 実行

実行許可フラグにチェック有りの登録ドキュメントを指定に従って順次実行していきます。

>> 単体テスト

指定された1個の登録ドキュメントのみテスト実行します。

>> 全体テスト

実行許可フラグにチェック有りの登録ドキュメントを指定に従って順次テスト実行していきます。実行エラーなどが生じると原則停止もしくは処理を中断します。

>> 停止

その場で処理を中断します。そこからの再開はできません。

>> 一時停止

再開可能な状態で一時停止します。再開指定で再開が可能です。

>> 再開

一時停止してある処理の続きを実行します。

>> ドキュメントの親フォルダを開く

登録ドキュメントが所属している親フォルダをウィンドウズ標準のファイル管理ソフト(多くはエクスプローラ)で開きます。

設定

>> ドキュメント編集

選択(反転)している1個の登録ドキュメントの詳細編集を行うための「ドキュメントアイテムの追加・編集」ダイアログ画面を表示します。

>> ドキュメント複製追加

選択しているドキュメント(複数のドキュメント指定可)の複製を作ります。現在登録のドキュメント内容を修正したほうが新規に登録するより簡単な場合に使用します。

>> ドキュメント追加

新規に登録ドキュメントを作成するために白紙状態の「ドキュメントアイテムの追加・編集」ダイアログ画面を表示します。

>> 上に移動

選択(反転)している1個の登録ドキュメントの順番を1つ上位に移動する

>> 下に移動

選択(反転)している1個の登録ドキュメントの順番を1つ下位に移動する

>> ドキュメント削除

選択しているドキュメント(複数のドキュメント指定可)を削除します。

環境

>>環境設定

環境設定用の画面を表示します。

ヘルプ

>> バージョン情報

バージョン情報の表示

>> サポートWebページ

サポートWebページ「屋根裏実験室」を表示します。インターネットへの接続を行います。

>> ユーザ登録

ユーザ登録を行います。

環境設定

<全般タブ>

>> DocStarterCS用定義ファイル保存フォルダパス名

定義ファイルの「保存」や「開く」処理をファイルメニューなどから行うときの優先候補にするフォルダパス名です。初期フォルダは DocStarterCS.exe があるフォルダになっています。ドキュメントフォルダ内に適当な名前の専用サブフォルダを作成して、この設定を変更しておくと思ひやすくなると思ひます。??

<外部ツール>



>> ファイル管理ツールを指定する

フォルダを開くなどに使用するファイル管理ツールには Windows標準としてエクスプローラ(explorer.exe)が付属していますが、市販ソフトやオンラインソフトに多機能で使いやすいものもあります。お気に入りのファイル管理ツールを指定してください。

エクスプローラ(explorer.exe)を指定する場合

登録名 [explorer]

起動窓 [通常]

パス名 [C:¥WINDOWS¥explorer.exe]、[C:¥WINNT¥explorer.exe] など...パソコンにより異なります。

スイッチ ["%"]

ファイル管理ツールに explorer.exe を指定した場合、動作時でフォルダドキュメントを開くとき待機フラグは無視され、連続して次の行が実行されます。これは explorer.exe 固有の振る舞いで現在 (Ver.1.01.3) 合理的な打開策が見つかりません。対策検討中です。必要なら explorer.exe 以外のファイル管理ツールを使用するようにしてください。

Ver1.03.0 にてタイマーディレイツール (TmDelayCS.exe) を同梱しました。強制的に次に指定されたドキュメントの起動を任意の秒指定で待機させるものです。次善の策ですが有効でしたらご使用ください。

TmDelayCS の取扱説明書はWebページ「屋根裏実験室」の DocStarterCS のページに用意しています。

起動書式

注意

- ・ 起動書式でパス名を指定する場合は「"」ダブルコーテーションでくるようにしてください。
- ・ 書式の記述には不要なスペースは入れないでください。
- ・ 半角スペースはスイッチ識別子の区切り文字として使用しています。

>> /dsta=<DocStarterCS定義ファイルパス名>

DocStarterCS定義ファイル(拡張子=dsta)の指定スイッチ。スイッチ識別子の /dsta= は省略可能です。

>> /g

自動開始スイッチ。起動されるとオペレータの開始を待たずに即、登録ドキュメントの順次起動が始まります。登録内容を確認するタイミングはありません。

>> /e または /e=<遅延時間>

自動終了スイッチ。指定されていた順次起動処理が終了すると、DocStartCS.exe も終了します。遅延時間を指定するとその時間だけ終了を遅らせます。遅延時間の単位は 1/10 秒です。指定有効範囲は 10(1秒)以上です。指定をしていないときのデフォルト値は多少長めの 50(5秒) になっています。

終了時の遅延時間がなぜ必要か・・・起動するドキュメントによってはその起動が完了するまでに時間がかかり、それ以前に起動した側のプログラム(DocStarterCS.exe)が終わってしまうと、起動に失敗するようです。この不都合を回避するための処置です。最終行のドキュメント起動がうまくいかなかったり、不安定になる場合は、この遅延時間を多くとると解決する場合があります。

>> /m

最小画面指定スイッチ。最小化画面でDocStartCS.exe を起動する。特に自動開始スイッチ(/g)が指定されて順次起動処理が始まった場合モニター画面の煩雑を避けます。

>> /psx=<左位置> /psy=<上位置>

メイン画面の左上位置を指定します。どちらか片方だけの指定も可能です。0以下は無視されます。最大値は縦横ともモニターサイズ - 32 です。これより大きい場合は無視されます。無視されたときの値は前回終了位置を参照

します。

>> /szw=<幅サイズ> /szh=<高さサイズ>

メイン画面のサイズを指定します。どちらか片方だけの指定も可能です。指定最小値は幅=455、高さ=250、です。最小値より小さい指定は最小値になります。最大値はモニタサイズです。最大値を越えた指定は最大値にセットされます。指定無しの場合は前回終了時でのサイズが参照されます。

ユーザ登録

DocStarterCS はシェアウェアソフトです。ユーザ登録がなされていない場合は制限事項があります。ユーザ未登録時に表示される「ユーザ未登録ダイアログ」画面を、一旦は「指定のオペレーション」で抜けて、DocStarterCS を動作させてください。ユーザ登録画面はメニューの「ヘルプ」 - 「ユーザ登録」で開くことができます。



「DocStartCS ユーザー登録」画面が表示されたら、

1. 作成者から送付された「ユーザー名」と「パスワード」を打ち込み、「登録ボタン」をクリック。
2. ユーザ名かパスワードに入力ミスがありますとその旨のエラー表示がされます。エラーがなければ「閉じる」ボタンで登録画面を抜けます。
3. 一旦 DocStarterCS を終了させます。
4. 再度 DocStarterCS 起動したとき「ユーザ未登録ダイアログ」が表示されなければ、無事ユーザ登録は完了しています。